### 山 739-2006·12·20 (第三種郵便物認可)

2006年(平成18年) 12月号(No. 739) 日本山岳会 The Japanese Alpine Club 定価1部 150円 URL http://www.jac.or.jp e-mail@jac-room@jac.or.jp

目

名古屋で開催………1

夢のマナスル登頂………2

村山雅美さん 追悼………4 東西南北 · · · · · · 6

支部だより‥‥‥‥ 8

活動報告 ..... 12

海外委員会·医療委員会共催/

図書受入報告 ………15

会務報告………16 ルーム日誌………17

会員異動………18

新入会員………18

さんけん通信……… 19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間

第2、第4土曜日 ······

第1、第3、第5土曜日 · · · 10~18時

年末年始休室 · 12月29日~1月8日

.....13~20時

資料映像委員会/二火会

福井/北海道/山形/関西

平成18年度年次晚餐会

ウェストンと会員章 カナダの山旅

自然保護委員会/

登山回想

次

ティン ナゴヤ 年次晩餐会が、 ルにて開催され、 協力のもと 東海支部 キャッスル」 435名が出 「ウェス (和田豊 ホ テ

12月2日、

初の地方開催となる

金のピッケルが目を引いた。 でも感じさせてくれるベストスポ である「猿投のあらまし ナーでは、 会場に設けられたグッズ販売コー 会発行)」 トでの開催は、 会場の前で、 金のシャチホコで有名な名古 名古屋という土地を否が応 東海支部の や まず目についたの カジタッ 何とも心憎 オリジナル (猿投の森 クス製

んな張りきっています」

と事務局

なパネルには、

田辺治隊長率い

会場前面に設けられた大き

からレクチャーを受けました。

会は、私たち支部をあげての手作 すべて、東海支部の会員が担当し りです。支部員と会友合わせて80 かけました。テーブルマスターは、 人ほどの協力を得て、 初の地方開催となる今回 作法などについては、 約 10 カ月を の晩餐

アルペンホルンの生演奏に誘導さ 長の佐野氏は語った。 大桑村で育ったクラブだという。 なんと、雄大な高原を彷彿させる ながらの入場である。演奏する 定刻になり、いよいよ会場 「大桑アルプホルンクラブ」、

が映し

出された。会場には

オ

" 額 ま る

という歓声と、

拍手が起こっ

5200紅地点からの映像と

会場に興奮と感動を与えた。

さに挑んでいる千田敦司隊員の 冬期ローツェ南壁登山隊の、 った。 0 動したのは筆者だけではなかろう。 とか……。 ぱいに響いた。 第4番第3、第4楽章が会場い 歌にはじまり、ブラームス交響曲 I トラの生演奏! 団らん中に、その交信が突然入 BCとの生中継」 さらに、特筆すべきは による生演奏である。 東海学園交響楽団 この2つの生演奏に感 晩餐会でオーケス なんと優雅 である。 ーローツ 雪山讃 会食

のですが……」 安気に話してい がよぎった。 うまく ってく た関係者の安堵 この企画を れると 13 17

更なる団結、 刻んでほしいと願う。 した新鮮な試みの数々、 支部の特徴を生かし、思考を凝 地方開催の狙 晩餐会出席の誘導などにある、 山会長は挨拶で述べてい 山岳会に新たな1ページを 本部との連携プレ 17 は、 支部員 で活性 た。

の晩餐会も見てみたい」という東 かわってみて思ったことは、 海支部会員の声 晩餐会の詳 たことがなかったけど、今回 最後に「これまで晩餐会に出 細な報告は、新年1 が印象的であった。 か

(取材と文=奈良千佐子)

うまくいくかどうか、

未知なん

### **50**年 2年越 目にかけた マナスル登頂

周年となる本年、 に阻まれて敗退。 出かけた。 会主催のマナスル登山隊を組織し 周年記念事業として、 あこがれの頂へと再度有志 日本マナスル登山隊20 日本山岳会の創立10 先輩諸氏の偉業 そこで初登頂 想像以上の大雪 事業委員

5名が無事登頂を果たした。 10月1日に隊長の私と小川武(64) ボンベの助けと天候にも恵まれ、 ト工作を省ける利点を甘受、 山本篤隊長)との話し合いでルー 行隊(日本マナスルガイド登山隊 つというタクティクス。隊は、 往復が5日間、 ら10月5日の25日間である タック実働はベースから頂上 65 中間キャンプは3 両隊員とシェルパ

> ンス隊が1隊、混成部隊が1隊で 高差1300㍍地点に7時間で到 H 合計4隊と盛況だ。 BC入り。全員、調子がよく、 BCには日本隊が2隊、 約10世の登行で4860次の 雨の中、テント設営に苦労す フラ

0~1度Cほど。 雨〜みぞれ〜雪〜曇りの繰り返し す。天気はその後、 周辺までの行動などの予定をこな 所順応のため、C1 (5730kg) を行なう。 15日より、荷上げと高 我々登山隊のプジャ (安全祈願祭) 9月14日、 時々晴れ間。 雨の合間をぬって 朝6時の気温は 毎日、曇り〜

岩場やスノーブリッジ、

フィッ

した。

ら43日間、

登山活動は9月11 渡航期間は9月3日

日 か となった。

06を結成、

秋に再起を期すこと

る岩場を越し、 までのルートは、 荷上げを残すのみとなった。C1 はC2、C3までルートを延ばし、 1への荷上げをすべて終了。 あと 右上して、マナスル氷河に下る。 ンのガレを約50分登り、 17日、朝から初めての快晴、 バンド上のガレを BCからモレー 水流のあ C

マ村のヘリポートに到着。

9 月 11

9月8日、

ヘリコプターにてサ



(撮影:大森弘一郎) マナスル登頂の上部ル

慎重にならざるを得ない。 ビレーをとりながらの行動でも、 スが10カ所ほどあり油断できない。 クスロープを6本使用 まではヒドンクレバ 懸垂氷河 途中、

快晴が続く29日、C2へ向

かう

ナイケ・

コ

ル

額に傷を負うが事なきを得た。 ス内の吹きだまりに止まる。 下した。 員が踏み外し、 ーブリッジにて南井英弘 出るが、 工 18 日、 ルパは19日からC2 設営に向けての荷上げに向 20日にC2設営完了。 山梨のビレーと、 ナイケ・コル手前のスノ 全メンバーがC1往復に 約6次、 6790 頭から落 71 クレバ 唇と シ か

> 降り続く。その間、 がる。 8時間かけてC1入り。 フィックス整備に出る。 25日の午後まで雨、 躍で7450㍍にC3の荷物が上 差約900以、 員全員がアタックに向かい、 れる。当初の予定通り、 ナイケ・コルを渡るツルを知らさ れ間がのぞき、 21日、 この日もシェルパの大活 天気は21日午後より 歩行距離7# 27日は快晴となり、 下部ルートの みぞれ、 28日に隊 26日に晴 高度

3へ。歩行距離約6\*5、 リッジに沿って直上、上部でリッ 隊が設置したラダー3カ所をあり 三原洋子(65)の両隊員も途上でリ ジをまたぎ左雪面より右上してC プラトー北端に突き上げるスノー けてC2入りする。30日に、 のクレバスを通過した。 がたく使用させてもらい、16カ所 タイアした。残りの3名は、 が、南井が体調不良、鈴木昭 1000以強、 をフィックス6本を使用し、 に複雑で危険なアイスフォール帯 約5点を10時間か 標高差約 高度差6 68

Ē, アタック日は、 午前5時前後に2隊に分か 予定どおり10



JAC旗を掲げる頂上の隊長

取り決めで行動した。

5000公周辺での順化と体調

張り出し、 りながら午前10時前後にそれぞれ 頂上へは、 頂上は東側に雪庇が大きく スノーキャップをかぶ フィッ

が眼下になった。

時折の突風を除くと無風快晴。 やかな段を三つ越えると頂上がは っきりと見え、イーストピナクル マイナス19度Cと比較的暖 達が29日に登ったパンバリ・ヒマ つない快晴の下に見渡せた。 アンナプルナ、ダウラギリ、 ルやヒムルンの山群が、 部とのミックスで歩きづら から太陽が顔を出すと、 クスを2本張 雲ひと か 緩 して、 翌2日にはBCへ下山した。 するため、 危険を伴う山だ。 した。 隊員と共に5名のシェルパも登頂 スルは終わった。 となった。 それぞれで、 るなど約40分滞在。 くりだが確実な歩みで涙の登頂へ。 は不安を与えない歩みで、 しの憧景の頂に、 その後、C2へ3時間で下 ナスルは、 2年越しのそれぞれのマ 頂上では、 心に響く50年目の秋 雪崩とクレ 山梨隊員はゆ 衛星電話をかけ 登頂の感動も

こう 山

ナ

用いる。 順化のための上部キャンプ宿泊 場所に設営。 を残さない行動をする。 応のセオリーをはずしても安全な 往復などの無駄や無理は 過激なものは慎むこととし、 せてのトレーニングは奨励したが、 ても安全を優先する。年齢にあわ スピードのためエネルギーとして 明らかに高度差があり過ぎ 上部キャンプは、 酸素は高度に関係なく そのため登高距離 その危険を回避 荷上げ 高所順 ない バス が

> 味は薄い というキー 程は尋常ではなく、 短縮を反省にあげてみたが、 でもこの年代だと10~11時間を費 なった。 C1より上で3隊員が、 維持のト 全員登頂を果たせなかった主な原 やす別な心配も出てきたからだ。 出による残念なリタイア宣言と 運動能力の平均化は難しく、 たしかに、 レーニングは順調だっ ウ ドに絡ませると意 キャンプ間 C2までの 力のある隊員 自らの 安全 た

頂上方向

65

・面と、

踏み込むと粗目の

ララッ

セ

なってい

た。

体調万全の小川隊員

2年越

0

て出発。

雪面はクラストした堅

ってお

n

春のそれとは大きく異

中央分水嶺踏査フォーラムのご案内 中央分水嶺踏查委員会‧科学委員会

2004年1月に100周年事業としてスタートした「中央 分水嶺踏査」も、2006年11月にすべて完了し、現在、報 告書の作成を進めています。報告書の発刊を機に この踏査を振り返って各支部の支部長、事務担当者、 分水嶺担当者も交えて締めくくりのフォーラムを次 の要領で開催します。

開催日:2007年2月17日(土) 午後3時~6時 所:鉄道弘済会館(JR四谷駅から徒歩5分)

容:第1部 ①踏査の概要報告 近藤善則

②地形学から見た分水界 小疇 尚

③分水嶺踏査完了所見 (国土地理院講師を予定)

④踏査記録とGPSの効用 宮崎紘

出席者とともに語り合おう 第2部 踏査を振りかえって

予稿集:中央分水嶺踏査報告書(会場で1200円で販売) 懇親会:フォーラム終了後、懇親会(3000円)を行ないます。

\*懇親会参加希望者は1月31日までに、FAXかハ ガキで本部事務局へお申込みください。フォー ムのみの参加者は申込みは不要です。

冒険登山とは異なった指導と実践 する高齢者のヒマラヤ登山には、 ど遠い位置にある遠足登山だが、 年前の槇隊長の年でもある。 短期間に安全に登るにはそれなり 000以だ。アルピニズムにはほ れにせよ、高齢会員の楽しみの8 日本山岳会の平均年齢であり、 ルが来た。 必要不可欠である ノウハウが必要。 おめでとう」という祝福のメ 9 |月15日、||隊員の皆様、 隊の平均年齢64歳は、 ますます増 敬老の いず 50 加

## 追 OBITUARY

## 村山雅美さん逝去する

下の表表。 「中国の中枢として活躍 で逝去された。「宗谷」の出港かたが山雅美名誉会員(国立極地研 を所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変所名誉教授)が2006年11月 変形名誉教授)が2006年11月 変形名誉を迎える3日前であった。

告別式は、10日午前11時より東京・新宿の一行院千日谷会堂にて京・新宿の一行院千日谷会堂にて京・新宿の一行院千日谷会堂にては村山キョさん、葬儀委員長は鳥居鉄山キョさん、

## 村山雅美さんを悼む

与え、人々はこの登山に興奮して うか。そしてこの、 されていた。 準備の段階からこの計画に参画し、 の光として、 ような時に、マナスル登山は一条 史を飾った一人が村山さんである ヒマラヤ委員会の中枢として活躍 いた。若き日の村山さんは、 マナスル登山の時ではなかったろ 中で国民は困窮していた。 我が国は戦争に敗れ、 H 本山岳会が最も輝いた時代は 国民に勇気と希望を マナスル登山 暗い世相 この その

解決した。

解決した。

解決した。

第一次登山隊の先発隊

をして現地へ飛んで以来、第二次

をいる登山阻止運動の解決に、も

遺隊では、前年から続いたサマ部

遺隊では、前年から続いたサマ部

として現地へ飛んで以来、第二次

り、 年の事業に参加し、 る良い人はいないか」と要請があ 部OBの鳥居鉄也さんに、「永田 茅誠司先生から、東大スキー山岳 達の行くところではない」と、あま 山さんは「南極は学者の世界、 世界に憧れた。こうしたなかで村 を派遣することになった。マナス さんのマナスルから南極への華麗 り興味を示さなかったようである。 ル同様多くの若者は、この未知の な転進がみられるのである。 (第一次観測隊長) 君をサポートす 会長で、南極特別委員会委員長の この ちょうどこの頃、日本学術会議 鳥居さんの強いすすめで村山 我が国は国際地球観測 南極に観測隊 俺

[善吉

この結果、村山さんは昭和31年、大山さんは昭和31年、大南極観測隊員として南極隊第一次南極観測は今年50周年を迎えた。この間、村山さんは南極観測ひとすじに、その先達として活躍された。このため村山さんの人生の後半はこのため村山さんの人生の後半は、我が国南極観測隊の歴史ともは、我が国南極観測隊の歴史ともは、我が国南極観測隊の歴史ともは、我が国南極観測隊の歴史ともは、我が国南極観測隊の歴史ともは、我が国南極観測隊の歴史ともけえる歩みを続けたのである。

めて成し遂げたのである。行であり、これを日本人として初復、約5200\*」におよぶ極点旅復、約52100\*」におよぶ極点旅

某われ尊敬されていた。なり上とし、これが時にはわがいを身上とし、これが時にはわが、ままと受けとられたときもあるが、

第一線を退官されたあとも南極への情熱は消えることなく、南極への情熱は消えることなく、南極への情熱は消えることなく、南極への情熱は消えることなく、南極への情熱は消えることなく、南極への精熱はついて、「私は今、86歳の老群について、「私は今、86歳の老と、文を載せている。そしてこの後半船は今、実現の運びとなったが、一文を載せている。そしてこの後が記が、方が、が、の持熱を見ずに他界されたことも南極、第一線を退官されたあとも南極、第一線を退官されたあとも南極、

### 弔辞

田立極地研究所名誉教授、日本山岳会名誉会員、故・村山雅美先生のご霊前に、社団法人日本山岳会の全会員と共に哀悼の意を表し、

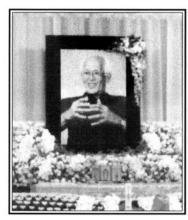
学校山岳部、松本高等学校山岳部、村山さんは東京高等師範附属中

3回越冬している。

そしてこの間

の最大の旅は、

第九次隊として行



村山さんは、 この 7 ナスル 登 Ш

村山雅美 (むらやま・まさよし) 1918年、東京生まれ。旧制松本高 校を経て、東京帝国大学卒業。1953 年から3次にわたり、マナスル登 山隊に参加。

南極観測には、1956年、第1次隊 より参加。1967年、第9次観測隊 長兼越冬隊長として、南極点調査 旅行を敢行、南極点に到達。国立 極地研究所名誉教授、日本山岳会 名誉会員。著書に『地の果てに挑 マナスル・南極・北極』(東 京新聞出版局刊)など。享年88。

> のでご安心下さい。長い間のご指 私たちは力を合わせて頑張ります

してこれからも私たちを見守っ

どうか安らかにお眠り下

ありがとうござい

ました。

備の中枢として活躍され、 へ飛びました。 次登山隊の先発隊員として、 ら取り寄せたりするなど、 ラヤ委員会の実行委員とし 計 の登山用具を取引先のスイスか 一田幸夫氏を隊長とする第 当初から参画 登山準 昭 和 28 て、 現 Ł

復員されて間もな

13

研二郎、

関根吉郎

関根吉郎両氏 昭和21年12

の実績を積まれ、

東京大学スキー

岳部を通 戦後海軍よ

じて登

山隊の先遣隊員として現地に派

パとの交渉、輸送、 積みました。 ネージメントに係り、 の実務的な作業と、 現地ではダージリンでの 多くの遠征 登山許可など その シェ ル 7

落で登山阻止運動に遭った際には、 発揮され、 までの経験と本来の能力を十分に 現地民との直接交渉に当たり、 る第二次登山隊が、 したが、翌年の堀田弥 この年の登山は成功しませんで そして昭和30年に第三次登 次の隊に希望を繋ぎま 現地のサマ部 隊長率 11

講和条約が批准されると共に、

ネ

和27年4月、

サンフランシスコ

ール政府からマナスル峰の登山

直ちにその準備を始

代表として尽力されました。

ヒマラヤを目指す本会にお

11

として昭和27年から3年間、

書とされた『山日記』

の担当理事

引き続き、

当時山登りの手引

学生部の指導を担当する理事にな

て間もない昭和22年から3年間

有能な村山さんは、

入会され

その再建に腐心している時期であ

戦災で、

全てを失った本会は 本会に入会されました。

平和交渉に成功し、 れております 登頂につながったと、 ズに登山行動を行ない、 有恒隊長以下の第三次隊がスムー その際には、 その結果、 現地住民との 高く評価 これが初 槇

で数々の業績を残されましたこと 進 要請され、 三郎氏より、 Ĩ, 先遺隊から帰った後、 ご高承の通りであります。 南極観測隊越冬隊長の西堀栄 以後50年間にわたり、 私は第一次、二次、三 ヒマラヤから南極に転 南極への参加を強く 村山 さん 次 極

事を務め、 ら昭和51年までの8年間、 日本山岳会において、 み交わしながら、 みんな私の部屋に集まり、 たち越冬隊員は、 畳に満たない昭和基地の個室で私 宗谷での狭い船室で、 と村山さんと南極行を共にし、 一次では一緒に越冬いたしました。 この間、 南極から帰った後、 多くの薫陶を受けました。 あるいは登山の話などを 本会のために尽くさ 53年の2年間、 村山さんから人 仕事が終わると 昭和 また、 村山さんは、 酒を飲 44年か 第

遣 その心くばりに教えられるところ その建造に奔走された時、 船、これは「ふじ」のことですが 昭和基地は閉鎖され、 私は村山さんのお供を仰せつかり この 間、 宗谷の老朽化のため 再開と後継 いつも

が多々ありました。

思うと、淋しさが募るばかりです。 ります。 きました」と報告でき、安堵してお 決まり、「ヘリコプターの予算もつ が決まらないと三途の川も渡れ の時の村山さんの口癖は 南極のことも、山岳会のことも、 推挙して、その栄誉を讃えました。 功績に対し、平成4年、名誉会員に たいことがありますが、これらを い」ということでしたが、これも と一緒に仕事をさせてもらい、 後継船の建造についても村山さん 本山岳会では、多年にわたるその そして、これら南極とは別に日 この経験から、今、 最後になりましたが、 このほかたくさん報告し 「しらせ 村山さん、 0

N

### 登山回想

### 松岡

行が鮮明に甦る 願望で、 員を歴任された織内信彦大先輩の 日本山岳会の元副会長、名誉会 北奥仙丈ヶ岳と国師ヶ岳に登 11年前 1995年6月上旬の山 (織内さん、 84歳) 照内 同じ山へ登山をした。メンバーは

11年後の今年、

10月16日と17日

(75歳)、佐野

(68歳)

両氏と

腐を賞味した(露岩の陽だまりで 登頂。途中のシャクナゲ、ハイマ た。小さな雪渓 り6500円、三食付) の民宿(標高2370以、 植村各氏と、私の5人だ。 で、北奥千丈岳(2600㎞) れた雪)があった。夢ノ庭園経由 頂で大休憩して、握り飯と湯豆 メンバーは織内、 ダケカンバの景観に感動した。 大弛小屋手前に車をデポし (畳1畳ほどの汚 照内、 に泊まる。 佐野、 金山平 1人当

S

すので、1点につき1000字程 度でお願いします)

福の表情だった。 影し握手をする。 くれた。 高峰登頂で織内さんも大満足、 とる食事はうま 充実感は、 私たちに活力を与えて (i) 元老の微笑みと 登り残していた  $\pm$ 師ヶ岳で撮 至

双眸に入る。大パノラマに歓喜し 八ヶ岳連峰と南アルプスの山々が いた。無風快晴の好天だ。金峰山 丈岳に着いた。約40人の登山客が ほどなく大弛峠に到着。 ジは黄や赤、 走行した。カラマツ、ブナやモミ 牧丘町を通り、舗装された林道を 大弛峠を出発。 古谷 (77歳) 16 (76歳)、 日、塩山駅前で車2台合流。 岳友の岡田 両氏の5人 くれない色で美しい。 12時30分に北奥仙 11時25分、

山の展望が素敵だ。ため息と涙が

た先輩の方々に感謝したい。

さらに国師ヶ岳で休憩。

袋に入り就寝。

寒さと、

頻尿で数

した。夕食後、

19時にテントの寝

ト場に到着。

14時15分、

大弛小屋そばのテン テントを3張り設営

海の上に、 秩父の高峰開拓と普及に尽力さ 朝日岳、 く聳える富士山を眺めての朝日峠、 える金峰山までが長丁場だった。 出発。朝日峠から朝日岳に至る。 分の食料などを持ってテント場を た原生林の山道がなつかしい。 が設置されて歩きづらい。苔むし 前国師付近は、木製の階段と桟橋 良し、山友達良しで、心の真珠を得 した時期と山域良し、雲海と景観 走は楽しく、大収穫だった。選定 した北アルプスの展望、 昼食と缶ビールで乾杯した。 めることができた。すぐ手前に見 山道は明瞭で快適な縦走路だ。 だ。 7時15分に、 午前5時に起床。17日も大快晴 ハイマツの群生と、 11年前と異なり、夢ノ庭園から、 輝かしい登山のひと時だった。 外に出る。 砂礫の岩稜で休憩。 南アルプスの山々を眺 金峰山への往復縦 防寒衣類と2食 遠く雪化粧 景色と高 質素な

## ウェストンと会員章

出るくらいの感動だった。

長田義則

章の着用が見られる。 招待会では、その記録写真に会員 ができる。明治45年のウェストン 用していたことからもうかがう事 17 いない。ウェストンの日本への強 章を見て、 ンだから、 章を送っている。 誉会員になった通知と、その会員 るウェストンに、日本山岳会の名 を作って希望者に頒布した。発起 て山岳会の創立を促したウェスト 人の高野鷹蔵は、 思いは、 名は日本山岳会となり、会員章 明治42年5月の大会で、 その会員章を好んで着 声を出して喜んだに違 山岳会から届いた会員 離日の際、重 故国に帰ってい Ш

温を測り、 氷河の散策に出かけ、 ヤモニに投宿した科学者の寺田は、 月11日の晴れた日曜日のこと。 せられている。それは明治43年9 寺田はウェストンから会員章を見 たが、外国での偶然の出会いにも、 寅彦とウェストン」を書かれてい 『山』737号に関塚氏が 氷河の観察を記録しな 寒暖計で気 シ

がら歩いた。

Hotel dé bell séjourを通りかか Hotel dé bell séjourを通りかかの名も、日本山岳会も知らずにいの名も、日本山岳会も知らずにいて、ただ頷くばかりだった。これが「ジャパニーズ・アルパイン・クが「ジャパニーズ・アルパイン・ク 日記に「日本登山会の徽章を有せ 日記に「日本登山会の徽章を有せり」と訳した。

松方三郎さんは、「先生への通信」から、寺田がウェストンに山信」から、寺田がウェストンに山岳会の話のひとつもできずにいたのを知り、2人の何とも惜しい出のを知り、2人の何とも惜しい出のを知り、2人の何とも惜しい出のを知り、2人の何とも惜しい出のがの状況を会報に語っている。と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違と解説。想像と解釈がそれぞれ違いである。

章だから、返さないというのだっ 大正9年に新しいものに変わった。 大正9年に新しいものに変わった。 ウェストンからクレームがでた。 ちのは多くの山行を共にした会員 ものは多くの山行を共にした会員 章だから、返さないというのだっ

> 気を感じたものだ。 JACのバッチに、クラブの雰囲島敏男、松方さんらの襟元に見た

う会員章だから着用しよう! 苦心して作った会員章。誰にも合

## カナダの山旅

原謙

姿を見ることができた。 おナダのアッシニボインキャンカの は中、霧の中に数頭のヘラジカの を中、霧の中に数頭のヘラジカの とハイキングを楽しんだ。 とハイキングを楽しんだ。 とハイキングを楽しんだ。

れず、残念だった。ていたが、あいにく霞んでいて撮インを眺めた。写真撮影を期待しいる尖った綺麗な山、アッシニボキーのマッターホルンと呼ばれてキーのマッターホルンと呼ばれて

この峠から10分ほど下った所がで、カースの峠から10分ほど下った所がで、カースには関し、アルバータ州とが上南に位置し、アルバータ州とがはグループキャンプ場、個人キャンプ場、キャビン、ロッジなどがあり、周りは森と氷河、湖と花であり、周りは森と氷河、湖と花であり、周りは森と氷河、湖と花でかけれる素晴らしい所だ。アハイキングのためのトレイルも

多く、標識もしっかりしたものがあちこちに設置されていて、自分にあったコースを選択して楽しむようになっているのは嬉しい。このキャンプの参加者は20人。参加者は、ランチとフルーツ、お参加者は、ランチとフルーツ、おので持って、周囲の山や湖などへ適当なグループを作ってハイキングに出かける。

れわれが来る数日前にはオーロラだ。くらい雪が積もったようだ。わと雷の日が1日あり、高い所は15天気にはほぼ恵まれたが、大雨

の登頂記録を書いたものが入れて 
の項上にはノートが入るくらいの 
の項上にはノートが入るくらいの 
の項上にはノートが入るくらいの

あった。

は愛嬌をふりまき、 り組んでいる。テントの周囲には ナダは、自然保護へ国を挙げて取 る人数を20人と限定している。 する。これは植物を保護するため かわいい地リスが時々顔を出して の配慮だ。そして、1日に泊まれ ら汲んできて使うというものだ。 のトイレと下水があり、水は川か いる。キャンプ場の端には浸透式 テントと食料テントが用意されて テントを張っていた。他に、調理 週間ほどの滞在者が多く、小さな ャンプ場は広い草原にあった。 テントの場所は数日ごとに移動 われわれが使用したグループキ 和ませてくれ 1

対策を講じているのには驚いた。大型コンテナへ入れて食料テントで保管する。さらに、匂いが出るではくするのでは、のでは、ないが、そこへ保管後、ワイヤーで高い木の上に吊るすなどのが、まが策も徹底していて、食材は

# 支部だより

全国各地の支部から、 それぞれの活動状況を、 北から南へとリポート

### 福井支部

## 全国支部懇談会を終えて

10月7日~9日にかけて、全国10月7日~9日にかけて、全国にて開催、翌日、あわら温泉に場所を移し懇親会を行なった。 会長をはじめ、首都圏から3名、 その他23支部からは140名、福その他23支部からは140名、福名の参加者を得た。さらに福井県名の参加者を得た。さらに福井県

次のような問題が発生した。永平 次のような問題が発生した。永平 次のような問題が発生した。永平 を性は即賛成をした。その後、開 女性は即賛成をした。その後、開 を性は即賛成をした。その後、開 な性は即賛成をした。その後、開 な性は即賛成をした。その後、開

寺で1泊することにすると、懇親会にはお酒はつき物、これは懇親会にはお酒はつき物、これは困った。ならば2泊3日として、困った。ならば2泊3日として、困がを変え懇親会をしてはどうだろう。しかし、この案には、本部の強い反対があった。

年前)、曹洞宗大本山永平寺の尚事 1度、 立100周年を終え、 願いに行ったのだった。 参加いたしますからと、 兼庶務主事の長尾氏に200名は 本部の許可も得ないうちに、即(5 にて懇親会をすればいい」と決断 ゃないか。そのあと、あわら温泉 から始まっている。 1年目になるのを機会に、ここで 支部長は「日本の山は山岳修験 原点に戻ってみてもいいじ 日本山岳会創 新たな10 参籠をお

えなかった。

たが、残念ながら聞き入れてもらに参加しないでもらいたいと伝え

入る。

ださった。

温泉にて懇親会を開催する」と報平寺で行ない、希望者のみあわら事務局会議のおり、「全国集会を永事として2月に開かれた支部長・



洗面後、

法堂にて朝課(読経)、雲

水の方に諸堂を案内していただき

祖跡コース、祝山山頂にて

何かと相談したいので、この遠征と言い出した。全国集会の事で、もチベットの未踏峰へ遠征に行くもチベットの未踏峰へ遠征に行くもので、ののでは、9月に20日間告をした。

応対に追われた2週間だった。 を対に追われた2週間だった。 を対に追しいるのを待って、本格的に で準備をする大変さを味わうこと で準備をする大変さを味わうこと である私の家のFAXと電 が、との打ち合わせなど、 を期間 を対しという、慌しい を対に追われた2週間だった。

8日は4時起床、布団をたたみ、えての食事の後、9時消灯。永平寺での法話、座禅、偈文を唱永平寺での法話、座禅、偈文を唱

続いていた。 続いていた。 を、夜が更けるまでの語らいがをと、夜が更けるまでの語らいがまる。懇親会後の二次 をの会場では、なかなか会えない をと、夜が更けるまでの語らいが をと、夜が更けるまでの語らいが をと、夜が更けるまでの語らいが をと、夜が更けるまでの語らいが をと、夜が更けるまでの語らいが

(福井支部事務局 舩田洋子)ことに心より感謝申し上げます。ださり、盛会のうちに終了できたが、大勢の方が福井の地に来てくが、大勢の多かった全国集会だった

### 北海道支部

## 出版記念祝賀会盛会に終わる北海道中央分水嶺踏査記録

歩くことになる。 多くは藪こぎで積雪期に集中的に 多くは藪こぎで積雪期に集中的に は野査の総踏査距離である。大雪 は野査の総路をでする。 は野である。 は野である。

04年1月2日にスタートし、3年後の7月16日に達成できたが、その約8割が積雪期だった。また、その約8割が積雪期だった。また、その約8割が積雪期だった。また、その約8割が積雪期だった。また、全国各支部会員の参加によって踏全国各支部会員の参加によって踏全国各支部会員の参加によって踏全国各支部会員の参加によって踏全国各支部会員の参加によって踏

数は63編にのぼった。 との間、踏査のつど、本部へのこの間、踏査のこかに、踏査した報告公式記録のほかに、踏査した報告公式記録のほかに、踏査した報告公式記録のほかに、踏査した報告公式記録のほかに、踏査した

月、編集委員会を立ち上げた。巻本嶺踏査を1冊の記念誌として残水嶺踏査を1冊の記念誌として残い。6年12

この編集は、高澤光雄前副支部長 会を開催した。 の力によるものであった。 の山域にまつわる回想を19人が稿 山域を地域別に9分類して、 語地名考、史実などを網羅。 地図の転載許可を受け、踏査ルー を寄せている。10月14日に出版 と共に踏査記録を57人が執筆。 トを記入して、地質地形、 参加で、 た。国土地理院から20万分の1 言を平山会長に執筆していただ 同日、札幌市内のホテルで55人 賑やかな出版記念祝賀 アイヌ 写真 踏査 そ

の生誕百年を迎えて」と題して、本幸夫副支部長が「坂本直行さん第1部は記念講和で、最初に滝



会員による演奏をバックに「歩くうた」を全員で合唱

坂本直行の評伝『日高の風』執筆 坂本直行の評伝『日高の風』執筆 れざる直行像を紹介した。

せた。 道登山界」は、貴重な資料写真を さらに「映像で見る百年前の北海 立図書館や、 パワーポイントで紹介。 業開始から半年足らずで完成させ 通って、地質、地層、地図に関す 録編集、 歴史を残した人々を鮮やかに蘇ら た並々ならぬ情熱が伝わってきた。 ることを調べた」と語り、編集作 んでもらえるように努力した。 はじめた。「山を知らない人にも読 続いて、高澤前副支部長は、 出版にいたる苦労談から 国土地理院に何度も 山岳史に 道 記

第2部は祝宴。新妻徹支部長が 第2部は祝宴。新妻徹支部長が と述べた。カナダ山謝している」と述べた。カナダ山謝している」と述べた。カナダ山 おっている」と述べた。カナダ山 おっている」と述べた。カナダ山 おっている」と述べた。カナダ山 おっている」と述べた。カナダ山 おっている」と述べた。カナダ山 おっている

盛会のうちに祝賀会を終えた。 
盛会のうちに祝賀会を終えた。 
なっている。 
なっている。 
なっている。 
なっている。 
なっといる。 
なっといるいる。 
なっといるいる。 
なっといるいないるいないないないないないないないないない

(樋口みな子)

### 山形支部

## 支部山行――湯ノ沢岳

湯ノ沢岳(964㎞)は、『蝉しる。

1000景に満たない山であるいの直登に近いコースはかなりきいの直登に近いコースはかなりきいの直登に近いコースはかなりきら延びる尾根には、摩耶山、湯ノら延びる尾根には、摩耶山、湯ノら延びる尾根には、摩耶山と続く峰々があり、摩耶山地と呼ばれている。 ままり、摩耶山地と呼ばれている。している。

秋晴れの10月22日、参加者7名



秋晴れの湯ノ沢岳頂上にて

再計画したものである。 登山口の橋を渡り、 湯ノ沢ダムに集合した。 の松田孝一会員がリベンジに燃え、 ったという経緯があり、 マイカーに分乗し、 しかし、悪天候で中止にな 前年の10月にも計画 登り始めた。 林道終点の 8時30分 リーダー

の古い標識から、 しだいに急登の連続となる。「清滝 まれた登山道を登っていく。 の足取りも軽く、ブナの黄葉に包 本当に気持ちが良い。参加者全員 が広がる絶好の登山日和となり リベンジとなった今回は、 471どのピークを過ぎると、 「御宝前参道」 信仰の山であっ 青空

> したということだ。 まずここを開いて、この山で修行 たことがうかがえる。伝説による 弘法大師が湯殿山を開く前に、

時45分、 だ後、12時45分、下山にかかる。 そして、クサリ場を過ぎた8合目 になってくる。周囲には、 登る時よりさらに慎重に下る。 でのんびりランチタイムを楽しん 山頂に着いた。気持ちのよい山頂 過ぎ、しばらく登り、 まで見渡せる。母狩山への分岐を からは鳥海山と庄内平野や日本海 ら朝日連峰の峰々の眺望が広がる。 高度を上げると急登のやせ尾根 登山口の湯ノ沢ダムに着 11時35分、 月山か 14

だ。 今晩の味噌汁用にと採る人もいて、 に恵まれ、 景色ばかりでなく山の幸も楽しん メンバーの中にはナメコを見つけ、 と展望を満喫することができた。 ードなコースではあったが、好天 クサリ場、 見事に色づいた黄紅葉 やせ尾根とハ

満たない山ながら、 秘めた湯ノ沢岳は1000以にも と辛い、魅力ある山であった。 急峻な山容と山岳信仰の歴史を 小粒でピリリ

峰山、

大阪、

兵庫、

回

## 関西支部

### 四国分水嶺踏査に挑戦 踏査状況の報告

洋側にそれぞれ水系を分ける境界 955メル) 線の山岳をいう。剣山山系、 ては分水嶺を26区間に分割し、 山系と重なり、 紀伊水道や宇和海などを含む太平 創立70周年の記念事業の一環で、 野川)まで到達した。これは支部 四国分水嶺の踏査に挑戦している。 まで、瀬戸内海と太平洋を分ける 5月から毎月、登山を実施してい 11月25日までに高知県の岩原(吉 (1982メメ)、2番目は剣山 ある愛媛県の黒森山(1154㎏) (773㍍)から、四国の最西端で る徳島市の最高峰である中津峰 四国分水嶺とは、 関西支部は、 来年秋に完全踏査する予定だ。 1泊2日で実施している。 回は5月27~28日、会員ら32 である。踏査に当たっ 最高地点は石鎚山 四国東端に位置 瀬戸内海側と 毎

りかけ、

総延長約10世を歩いた。

ウツギやツツジ、

ヤマボウ

約1000㍍の尾根を5時

間 あま

徳島の一般登山者が参加し、 横浜などに在住する会員のほか 人が徳島市の平石山を起点に中津 轆轤山を経て旭ヶ丸まで縦 奈良、 コメツツジをはじめ、ダケカンバ て知られる。 の雰囲気が醸し出された山域とし サの大草原の稜線が広がり、 れる三嶺から天狗塚を経て、 ら三嶺まで歩き、 を楽しんだ。 シなどの花や周囲の山並みの風景 帯は西日本では数少ないクマザ 四国アルプスの心臓部 8月は四国の東の横綱・ 土佐矢筈山の連嶺を歩いた。 国指定天然記念物の 10月28~29日は といわ 剣山

「土佐矢筈岳」を越えて「小樽曽山」へ向かう

国カルスト、

ったブナ林がある高城

西日 まとま 徳島市の最高峰中津峰山。 ラインの存在を示し

「出発の山

は

へと連なる

多雨地帯雲早山を通

り

チとして、

剣山山系、 佐田岬

石鎚山系、

次に、太平洋側からのアプロ

来年は愛媛県の笹ヶ峰、 があるとして中止することにした。 12月から4月までの 一確に稜線を辿れない 瓶ヶ森、 積雪 告書を作成する方針だ。

公開しているほか、

踏破後には報

破の状況を支部のホームページ

で

を忠実に歩くことにしており、

広がる風景にも出合うことができ 物が根づく自然林や大パノラマの は道のない藪山も多く、希少な植

関西支部では可能な限り稜線

が

ている。

その反面、場所によって

山道が整備され、

林道も建設され

にあふれていた。

国分水嶺のコースの大半は脊

ブナなどが黄葉して、

晚秋

0

魅力

魅力と意義」を、 ら熱心に聴き入った。 て話し、参加者はメモをとりなが るかと、今から楽しみである 恒夫関西支部長が「分水嶺踏査の と題した講演会を開催した。 石鎚山など西の横綱を辿ることに 国分水嶺踏査にあたり まず筆者が四国の分水嶺につい 5月26日に「四国分水嶺踏査」 「四国の分水嶺の山々」につい どんな山の素顔に触れられ 筆者 (尾野益大) 重廣

の早池峰に例える人もいる」 または支流の銅山川へ注ぐ源があ 造線と重なる。 チバナなどの高山植物があり、 らなり、 赤石山は鉄分を含むカンラン岩 には四国北限のブナ林がある。 る」と紹介した。さらに、「大滝山 の個性について話した。 の源があり、 「讃岐山脈、 ユキワリソウ、 南側に吉野川 瀬戸内海へ注ぐ河 法皇山脈は中央構 ゴゼンタ 本流 西 東

最高峰 ナがある。 前 石 0 前半 鎚山系については の剣山を目指す」と分水嶺

嶺の

要

野川源流の山で四国最高地点のブ もある」など、 分水嶺の定義について詳しく語 分水嶺は瀬戸内側と太平洋側の二 つに並列して存在する点を指摘 レンゲショウマが発見された山で から抜け出して個性的な登り方 の火山活動によってできた。 ひき続き重廣支部長が、 そして「そろそろ○名山ブー 独自のテーマでの登山の の主な山々について説明。 石鎚山は1500万年 詳しく解説した。 「瓶ケ森は吉 四国の 実施

0

2006年秩父宮記念山岳賞受賞!! 山本紀夫著/四六判/400頁/2730円

### アンデス・ヒマラヤ

美しくも厳酷な環境で暮らす人びとに寄りそった40年。

### ドの風 山と遺跡と シルクロー

内田嘉弘著/A5判/284頁/2520円

チベット、中央アジアの山からゴビ沙漠、青海省の旅。

### 比叡山1000年の道を

竹内康之著/A5判/152頁/1680円

お山へ登る道、京への峠道、延暦寺三塔十六谷の堂塔を結ぶ道。

### 富山湾岸からの北アルプス

佐伯邦夫著/四六判/268頁/1995円

立山、黒部、剱、白馬、毛勝など北面からの新鮮な登山紀行。

日本山岳会編/菊判/1992頁/18900円

創立百周年記念出版。日本全国4000山の情報を網羅。

http://www.nakanishiya.co.jp/[表示価格は税込]

されていない地域の確認、 ンパス、GPSの利用、 岳会の設立の理念は、 を横断するという試み、 スを駆使しての 残雪期などの通過が必要。 登山の原点である藪こぎや積雪期 ない山を歩く困難さの追求、 味わえる」と強調した。 [技術の原点である地図とコンパ パイオニアワークの実践を登 一の観察や発見を通じて感動 ートの多くは登山道がなく 実施にある。 困難への挑 また「分水 地図とコ 知り尽く 日本山 登山 四玉

動

報

牛

日本山岳会の

活動報告です

各委員会、同好会の

## |然保護全国集会

った。 活動報告とグループ討議、 の参加者を得て開催された。 22日の2日間、鳥取県大山で94名 かれてフィールドスタディを行な 今年の全国集会は、10月21日 大山登山など3グルー ホテル大山において各支部の 2日目 プに分 初日

動について」の報告があった。 部高田支部長から、 はかった貴重な報告である。 委員小西毅さんを中心とした官民 化した大山山頂を、 で有名な「大山山頂の植生復元活 体の活動によって植生の復元を 21日の午前は、 登山者によって荒廃し裸地 最初に、 支部自然保護 一木一石運動 山陰支

日制定活動」について)、北海道(高 があり、 広島(「広島山の日・山 各支部活動状況報告 0

下4名の招待者も参加して、

活動を引き継いで、

自然保護委員

境ネットワーク」(山環ネット) 組織として発足している ぞれ報告された。 手道上のブナ育成活動) 規制実施について)、山陰(大山横 勉強会)、 森づくりの活動のあらまし・森の 登山道の被害状況)、東海 の風力発電について/徳本峠越え その後の動向)、信濃(入笠山周辺 山国定公園計画改定要望書提出と 山植物パトロール)、 関西(大台ケ原での入山 が、 (猿投の (早池峰 それ

環境省・米子環境事務所の所長以 発表が行なわれた。この討議には、 各グループの代表者からまとめの ループに分かれて討議し、 福)、5・適正利用 山のトイレ 負うべき山の環境問題」について、 ある「登山者自らが責任の一半を (宮崎幸博) 4・商業登山 午後は、今年のメインテーマで 高山植物 (樋口みな子)、2・ (森武昭)、3・登山道 (篠崎仁) (大蔵喜 最後に 0 グ

て、

具体的に、

かつ行動に直結す

半日

ので、

今回の議論を踏まえて、

の議論で結論が出ることではない る議論をするよう要望した。

れからは、

自然保護委員会の下部

山の



会議室での集会の様子

問題で、 JACとして何ができるかにつ ぞれのテーマについて、 という反省がある。 ぼすような継続活動に欠けていた わってしまい、社会的に影響を及 きたが、 うなテーマは繰り返し議論されて な討論が交わされた。 その場かぎりのものに終 その対策は何か、 今年は、 過去このよ いま何が そして それ

> 外部にも発信していこうと考えて くことになる。 会と一体となって継続検討して JACだけでなく、 そして、 活動成果 積極的に

を満喫した。 山を楽しんだ。晴天に恵まれ、 グループとも深まりゆく山陰の秋 識を持ちながらのひと味違った登 報告を実際に目で確かめ、 てのフィールドスタディである。 大山登山では、 2日目は、 3グループに分かれ 初日の山陰支部の 問題意

げてご協力いただいた山陰支部各 位に対して厚くお礼申し上げる次 本集会実施にあたり、 山川陽一 支部をあ

## 海外委員会·医療委員会共催

## 辺境における救急医療」 ジム・ダフ博士講演会「山

ジム・ダフ氏の講演会が9月20日 本勤労者山岳連盟、 山岳会のほか、 に東京体育館で開催された。 海外委員会・医療委員会共催で、 旅行業ツアー登山協議会の ・トラスト 日本ヒマラヤン・アドベ 日本山岳協会、 HAT-J) 日本ヒマラヤ 日本 O 日

来日したジム・ダフ夫妻

設中である。 隊の隊員など登山経験豊富な登山 使うプレッシャー ポーター やインドに滞在し、 ギリスとの往来の途上にネパ 家としても高名である。 であり、 市でも開催し、 C 宿泊施設兼高 ている。 救急·処置読本』 ジム・ダフ氏はイギリス人医師 ・トレッ の考案者として知られ、 ストラリアに在住しており、 ゴーキョ谷にポーターの エヴェレスト南西壁登山 人権擁護団体の活動をし 盛況であった。 カーのためのサバ また、 所医学研究施設を建 参加者合計334 ・バッ (本の泉社) 医療講習会や 高山病治療に 現在、 登山 ールル 1 PA 0

障害、 題は、 ディスンをわかりやすく解説 著者でもある 度で生じ、 もある。外傷はまれではあるが、 識障害から転落事故を起こす場合 にいたる場合もある。 腸炎が多く、脱水や電解質バラン とが指摘された。 を使いながら、 刻な事態を引き起こす場合もある。 スの失調、疲労倦怠から登頂失敗 (熱中症、 マラヤでよくみられる医学的問 ヒマラヤ遠征の美しいスライド 講演会では、 高所障害は2500以以上の高 疲労倦怠感、震えが生じ、 外傷であり、 低体温症、 急性高山病、 暑さ寒さによる障害 ウィルダネス・ 氏が参加した7 病気としては胃 病気が多いこ 凍傷)、 低体温 脳浮腫、 高度 した。 次深 意 X П

どが症状である。高地脳浮腫では 肺水腫がある。 の2倍程度生じ、 症状がみられる。 ともに息切れや咳などの られる。 られた場合、 識症が生じ、このような症状が見 ひどい頭痛と運動失調、 1~2點で起こる。 めまい、 高地肺水腫では倦怠感と 高山病は重篤と考え 疲労感、 急性高山病は、 両 肺水腫は 方あわせると 食欲不振な 複視、 呼吸器系 頭

> 改善しないようなら即下山。 要である。時間の都合で具体的な 則である。 ある場合には高度を上げないこと、 のためと考えて、 な状態まで多様である。 ほしいということであった。 医療については著書を参考にして に低血糖と脱水が高地で起こりや 有効である。 冒してしまうことになる。"症状 3つの高所障害は軽症 "四重奏"であり、 高所障害にはPACも 低体温症、 不眠、 致死的な冒険を 注意が必 高所障害 不調など 症状を風 から重篤 が鉄

浮腫や肺水腫の症状を隠す危険 どが説明された。 最初に氏から、 自分は使わない 水症状をもたらすので危険であ スは水分のバランスをくずして脱 して携行していること、ラシッ あるので予防投与はせず救急薬と るが予防的に内服した場合には脳 サメタゾンについては速効性はあ き薬とは考えていないこと、 については自分は必ずしも飲む 質疑応答では、 経験した登山の医療である」と 質疑応答がなされ 血栓症、 など、 講演内容は ダイアモッ PACの利点な 高所における血 興味 の尽き クス ク

> 説得力があった。 豊富な経験に裏打ちされた話には 言われたが、 講演、 質疑応答とも、

演会は東京の後、 協賛であっ

札幌の

都

公益性を考え、 大阪、

時間の場所で高山病のために解雇 ジム・ダフ氏がいた診療所から数 惨な状態にあることが紹介された。 立したという。 氏は1997年に国際山岳ポータ 救命できなかったことを契機に、 されたポーターが倒れており、 岳ポーターが人権を無視され Ó 隊が診療所へ救助担送したが 講演の後半では、 権利擁護団体 処遇改善の ための組織であ IPPGはポ I P P G ネパ 1 ル を設 た悲 0) A Ш

### 日本全国 9都市 よりソウル経由でカトマンズへ (発着地)札幌・函館・青森・新潟・東京・名古屋・大阪・岡山・福岡 発表!! 大韓航空カトマンズ線就航記念

### のネパール・ヒマラヤ・トレッキング 10E

- 出発日: 2007年3/18、3/25、4/8

  ●アンナブルナ・ダウラギリ・パノラマ・トレッキング

  ●エベレスト展望トレッキングとシェルパの里

  ●ランタン・ヘリ・トレッキング

  ●マカルー・カンチェンジュンガ展望トレッキング

大阪 206-6444-3033 名古屋 2052-581-3211 福岡 2092-715-1557 http://www.alpine-tour.com e-mail:info@alpine-tour.com

山岳資料に関わって

る

### 等連絡会議」開催される 第10回全国山岳博物

当会ルームを会場としてきた。 「北区飛鳥山博物館」、 秩父宮記念スポーツ博物館」 第6回目からはいずれも ちなみに第3 今年で10年目 恒例の全国山 第2回目か 第5 第4 毎年秋に 資料映 山 П 回 で 像 は は 丘



ことであり、 支部が設立され、 前から改善の動きが見られるとの 介されたが、 加費から10万円をIPPGに寄付 表になった。 つであるという。 活動は、 組織の今後の発展を願うと 日本からの寄与に尽力し 日本では今回初めて紹 なお、 それが来日の目的 日本でもこれを機に 貫田宗男氏が代 欧米では10年 本講演会の参 0

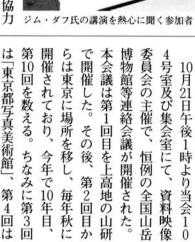
野口いづみ

となどである。

過度な重量の荷をかつがせないこ 病気・ケガのときの適切な対処、

適切な衣食住と医療の提供、

開催し、



野県)、 物館、 伯耆国山岳美術館 博物館(東京都)、市立大町山 館12名である。 山カルデラ砂防博物館 記念館、 植村冒険館、 早池峰山岳博物館 いずれの館も国内各地で活 池田町立美術館、 運営主体はさまざまである 富山県 仮称アルプス山岳館 会議に参加いただいたの 秩父宮記念スポ 公立、 [立山博物館]、 (鳥取県 財団、 (富山県) (岩手県)、 田淵行男 岳博 リッツ

> 指すことを骨子としている。 な山岳資料の運営管理の確立を目 ゆくは全国山岳博物館ネッ かで意見を総合的に整理し、 物館等と密に情報交換を行なうな 所蔵の資料寄託先でもある山岳博 たらされた。 実に多くの、 事業予定、 ヒマー により製作された「ジュガー n 頭で平 その後、 (羽田資料映像委員長撮影 ル遠征記録」 続いて1960年に中日 最近の話題等々…… 山善吉会長より挨拶 各館にも役立つよう 会議の趣旨は、 かつ貴重な情報がも 各館より近況報告、 を全員で鑑賞 1 ゆく ワー ル が



104号室での会議で、活発な情報交換を行なう

尽力で、

山と溪谷社より貴重な資

最後に、

当日は近藤隆治委員

0

料をご提供いただいたほか、

・歴史民俗資料館より企画展パン

フレッ

トの提供を受けた。

また、

当会図書室の田村氏より多大な協

を改め、 地方開催ということになる。 実現すれば、 協力を要請している。これがもし その視察も兼ね、同館に開催地 リニューアル新築中であり、 定である。これを受けて、 松本市 なお、 装いも新たに開館する予 旧アルプス山 山と自然博物館」と名称 信州において、 岳館 次回 が 現 0 0

### EΚ

個人手配旅行から人気のトレックツアーや エクスペディションのアレンジまで。充実 度が違う「旅」のブランニングをこころがけ ています。山旅などあらゆるジャンルを取 り扱っています。お気軽にご連絡ください。

### 株式 アトラストレッ

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030 大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111 √〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

歓談の夜は更けていった。

かに

げる次第である 力を受けた。合わせて感謝申し上

に紅葉の大沢沿いにゆっくり歩

É

途中にロ

ープやハシゴの

ある

糸滝を過ぎ

細 る。

中野守久

## **志津倉山山行**

当地出身の版画家の斉藤清を記念 えた17人が一堂に会し、 荘に着いた。 る只見川 した美術館、 案内で古刹円蔵寺を訪ね、 温泉町だ。さっそく、 中で地元の江花俊和氏と合流 水嶺踏査の苦労話をうかがう。 野彰氏から、 北上した。車中では福島出身の平 山行の16人の参加者を乗せたチャ **見線と並行した国道を柳津** ター 10月17日8時、二火会志津倉山 会津の地を目指して東北道を 柳津は只見川 バスは三鷹駅前を出発、 河畔の宮下温泉ふるさと 4時前に今夜の宿であ 会津の歴史や中央分 夕食は江花さんを加 西川町の生活工芸館 河畔の静 江花さん 賑や 次い かな :へ向 途 で 0

> 7 Ш ながら遠望がきかず、 頂に導かれたのが10時35分。残念 花さんご推薦のブナ平のみごとな 早月尾根に似た三本松を経て、 場に到着、 1234点の志津倉山の小広い山 ブナの巨樹の間をゆるやかに登り、 から伝説の猫啼岩を対岸に望む。 るシャクナゲ坂の急登にとりか たりから、 乞岩に感嘆の声を上げた。 始めたのが8時。 頂からの好展望はお預け。 層鮮やかさを増した紅葉の 途中の屏風岩からは日が差し いよいよクサリ場の 11時15分に下山 巨大な一枚スラブの やがて最後の 名にし負う この にか 江 間 か 水 あ あ 雨 か



志津倉山山頂にて

登山口に着いた。 高度を上げ、 途中いくつかの集落をぬうように

16

。離れた志津倉山 江花さんを先頭

翌朝は宿を7時にバスで出発

SPECIAL PROPERTY OF THE PROPER

幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野渓石

松島岳生

鷹駅前に着いて解散 コンパクトながら変化にとんだ今 ながら登山口に戻ったのが12時45 ゆるやかな傾斜のブドウ平をたど 京の途につく。 [の行程を振り返りながら一 ヒドを慎重に下る。 まさに、 ふるさと荘に戻って汗を流し、 江花さんのキノコ談義を聞 南会津好日であっ 午後8時過ぎに三

分。

り

### 図書受入報告 (2006年11月)

名 ページ・サイズ 出版元 刊行年 寄贈/購入別 著者 古市進·他(編) 記憶に残る太郎さん――中村太郎氏を偲ぶ学友達のつぶやき 46pp/26cm 「記憶に残る太郎さん」編集部 2006 小田薫氏寄贈 大澤雅彦·他(共編) 世界遺産 屋久島---亜熱帯の自然と生態系 278pp/27cm 朝倉書店 出版社寄贈 2006 廣川健太郎 実戦!オールラウンドクライミング――バリエーションの世界へ 199pp/26cm 東京新聞出版局 2006 出版社寄贈 石川 信義 鎮魂のカラコルム 216pp/20cm 岩波書店 2006 藤本慶光氏寄贈 118pp/21cm 羽賀一蔵(私家版) 羽賀一蔵 私が出逢った山の妖怪 2006 著者寄贈 167pp/26cm 魚津岳友会 魚津岳友会(編) 立山・黒部とともに――魚津岳友会創立50周年記念誌 2006 発行者寄贈



日時 11月15日 18時30分~20時

渡邉・石橋・古野各理事、 篠崎・大蔵・野口・斎藤・藤井 田邊各副会長、吉永・贄田・石田 【出席者】平山会長、 日本山岳会会議室 平林·橋本 山本・

【委任】小倉・重廣各常任評議員 今村常任評議員

との挨拶があった。また、学生部 実現に向けご努力をお願いしたい が、懸案については出来得る限り 成18年度も締括りの時期となった 議事に先立ち、平山会長より平 パンバリ・ヒマール遠征隊」の加

### 【審議事項

藤隊長の成功報告と帰国挨拶があ

り、拍手を持って祝意を表した。

記念山岳賞受賞者について 去る10月18日及び11月8日に開 第8回 (平成18年度) 秩父宮

> 結果が、村木潤次郎審査委員長よ ることとした。 り文書を持って提出され、第8回 催された審査委員会における審査 秩父宮記念山岳賞を次の会員に贈

り充実させるべきとの意見があっ なお、受賞候補の推薦機能をよ

- 13285、京都支部所属 • 受賞者:山本紀夫氏(会員番号
- 研究 における高地民族の山岳人類学的 ●受賞対象:-アンデス・ヒマラヤ
- 学生時代は探検部に所属され、 学博物館教授を務められている。 学部を卒業され、現在、国立民俗 て未踏峰の登頂も経験されている。 にはアタカマ高地登山隊に参加し ったのを契機として、1970年 アンデスの農耕文化の調査を行な 加し、ペルー・ボリビアなど中央 968年アンデス学術調査隊に参 受賞理由:山本氏は京都大学農 1

2 登山保険検討委員会の委員選 度年次晩餐会において行なう) 記念山岳賞を贈るものである。 来の発展を期待し、ここに秩父宮 っている。今日までの業績と、 地域との比較研究に進展するに至 研究に専念、90年代にはヒマラヤ の栽培植物と農牧民社会の民俗学 て生活を共にし、ジャガイモなど (授賞式は、12月2日開催の、18年

任について

次の会員を選任した。 検討委員会を設置し、 等との連携を視野に検討するため、 て、日本山岳協会扱いの山岳保険 委員長:贄田常務理事 現在扱っている登山保険につい 委員として

委員:篠崎理事、 黒川・悳各会員 (承認)

嶺踏査関連展示の費用支出につい 3 年次晩餐会における中央分水

節約するよう要請した。 別会計より支出することとするが、 った。創立100周年記念事業特 委員会より30万円の支出要求があ 東海支部および中央分水嶺踏査 (承認)

### 員会の再編構想について 「土曜懇話会」の創設および委

地において先住民と2年間に亘っ を踏査した上、ペルーアンデス高 アンデスでは山岳地帯のほぼ全域

降慎重に検討を重ねることとした。 り分ける案が示されたが、次回以 会」等を担当する集会委員会に振 の「事業委員会」と、「土曜懇話 ついて会報に広報することとした。 めることとし、日程や講演内容に て、とりあえず会長および副会長 来年1月より土曜日午後を利用し による講演と、会員との懇談を始 同時に、事業委員会を山行主体 ルームの有効利用を図るため、 一部承認·一部継続

北社 5 山岳 記事転載許可願:㈱西

長蔵氏「尾瀬沼の四季」 日日好日」への転載 大正14年5月発行『山岳』、平野 (東和銀行

承認・有料

ション―山と文学、そして美術 寄せ書ほか(「小島鳥水版画コレク 6 第4回新年会(明治43年1月) 所蔵品出品願:横浜美術館 承認·有料

の日」コーナーにて「今西寿雄氏 ○○思いッきりテレビ」「今日は何 マナスル登頂関連写真(「午後は テレビ放送網株

写真撮影・放映許可願:日本

が亡くなった日 (承認・有料)

8 写真利用願:雲南懇話会 長

岡正利

2002年、バドマナブ関連写

事に利用するもの の一部(登高会会報への転載) 月発行)、古沢肇氏「岳人の奥津城 会報第232号(1964年4 (日本山岳会英文ジャー 転載許可願:登高会 ナル記 (承認

(承認)

準備も順調に進められている。 約420名の出席が予想され 年次晩餐会について(吉永)

挙行された。450名の出席があ 記念式典への出席について(平山 去る10月14日、バンフにおいて カナダ山岳会創立100周年

3 山陰支部主管で、去る10月21日 大変なごやかな会であった。 全国自然保護集会(平林)

94名の出席があり、 ポジウムであった。 ~22日、大山において開催された。 充実したシン

遠征隊」帰国(吉永 去る9月29日、 学生部「パンバリ・ヒマール 初登頂に成功し、

10月15日全員が帰国した。

会計報告(吉永 創立100周年記念事業特別

支出 収入 央分水嶺踏査フォーラムに充当 11月繰越 1843万8173円 (繰越金は、百年史の発行および中 1億353万4468円 8509万6295円

新入会員オリエンテーション

(吉永)

提案することを検討する。 の参加が多かった。今後は、ブロ 開催、35名が参加した。遠方から ック開催を目指し、支部長会議に 去る10月28日、ルームにおいて

7 (委) への寄付受入について 富国生命(相)からの自然保 (吉永)

て(平林 万円の寄付があり、受入れた。 ットワーク」の活動資金として30 自然保護 首都圏の支部化の現状につい (委)の「山の環境ネ

となる有志懇談会が開かれる予定 る1月14日、発起人選任の前段階 員と検討中である。栃木では、来 東京をどうするか、当該地区の会 にその動きが見られる。神奈川、 いるところであるが、栃木・千葉 首都圏における支部化を進めて

> 込み。記念式典とトレッキングを 施する。参加者は約90名となる見

10 に関する説明会について(吉永 文部科学省の公益法人改革

7 日

図書委員会 青年部 アル

パインスケッチクラブ

総務委員会 中央分水領委員会

6日

みとの由であった。 年後半頃から動きが出てくる見込 ついても説明があった。2007 会が実施され、今後の監査内容に ツ局傘下の公益法人に対する説明

中央分水嶺踏査について(石

を完踏した。 る11月4日踏査完了し、当初計画 若干の未踏査部分があったが、去

海外登山計画検討委員会報

13 る予定。 来れば今年度中に具体案をまとめ て若手委員からの希望もあり、 検討。目標とする山の選定につい 去る10月23日、委員会を開催 10月度入会者 15 名 出

業について(田邊 マナスル初登頂50周年記念事

来る12月9日より予定どおり実

2 日

図書委員会 事業委員会

クラブ

1日

山岳地理クラブ フォトビデオ

去る11月14日、青少年・スポー

8日

秩父宮記念山岳賞審査委員

休山会

Ш

9 日 10 日 学生部 学研究会 青年部 山の自然

想俱楽部 会 学生部

14 日 11 日 アルパインスキークラブ 総務委員会 アルパインス ケッチクラブ

15 日 16 日 理事会 山水会 つくも会 科学委員会 青年部 の森実行委員会 山遊会 高尾

20 日 18 日 21 日 百年史委員会 インターネ 指導委員会 総務委員会 資料映像委員会

22 日 麗山会 アルパインスキー クラブ ット小委員会 00会

24 日 自然保護委員会 進委員会(首都圏 支部化促

学生部 ゆきわり会 常務理事会 九五会 プモ

طال ーム目誌 //

大須賀俊彦

8823

田卓

7196

### 土曜懇話会開催のお知らせ

来春1月より、毎月第3土曜日(原則として) の午後に、ルームにおいて土曜懇話会を開催し ます。

これまでの長い会の歴史の中で、良い山登り をされた方々、現在、一生懸命登っている人た ちのお話を伺い、山登りについて「お話しと懇 談をする会しとしたいと思います。

ふるってご参加ください

●第1回 土曜懇話会

時:07年1月20日(土) 14時~17時

場 所:山岳会ルーム

テーマ:我らが南極開設50年

語り手:平山善吉

●第2回 土曜懇話会

時: 2月3日(土) 14時~17時

場 所:山岳会ルーム

テーマ:最後の辺境・東チベットの未踏の山と氷河

-2006年秋の踏査を中心として―

語り手:中村保

●以降は、4月7日(土)、6月16日(土)、7月21日 出を予定しております。

問い合わせは、神崎忠男まで

松木宏夫 佐藤進英 阿部 岡澤修一 菊池晶三 緒方康成 29 日 物故 渡部盛夫 会員異動 30 Ħ 頼 中央分水嶺踏査委員会 尾の森実行委員 研 11月 1 2 7 1  $\widehat{1}$ 7318 î 12452 7922 (8675)819 究会 運営委員会 新土曜会 0 8 3 1 <sup>4</sup>/<sub>7</sub> 11月来室者65名 0 06 06 06 06 06 06 06 06 8 7 6 6 10 10 9 6 3 20 13 25 高 大和

高橋順子 西川 野地耕治 富田 渡辺義輝 照井康夫 土田喜代子 Ш 初雄 11929 1 3 8 6 1 3 6 5 3 1 2 4 1 2 2 7 9 1 2 4 3 9  $\frac{1}{6}$ 1 2 7  $\frac{1}{1}$ 96 8 6

宮崎

4

### ○さんけん通信○

### 2年目のさんけんが終わって 山研管理人 内野慎一

上高地には「初めて」がいっぱい、という シーズン初めの言葉通りの1年になりました。 その時は残雪の多さとテラスから見える梓川 のきらめき、という2つの「初めて」を紹介 しました。

その後、記録的な大雨という激しい初体験 に見舞われたことも、お知らせしました。そ ういえば、地鳴りを聞いたのも、土石流の前 と後の両方の姿を目にするのも初めてのこと でした。

また、水場の復旧作業の時にアナグマに初 対面ということもありました。沢に浸かって 作業していると、水音に消されて周りの音は よく聞こえません。ふと気づいた時には、も う3気ほどの近さで笹をガサガサさせていま した。鼻をくっつけるようにして地面を嗅ぐ のに一生懸命で、私の存在には気づいていま せん。こちらは、猿以外の動物はほとんど見 ることがないのでびっくりです。「何だろう、 こいつは」とカメラを取りに行こうとした時 に、カランカラン。あっ、熊よけの鈴を付け ていたのを忘れていました。その音にびっく りして、アナグマは笹藪の中へ。残念、でも 今思えば、ツキノワグマじゃなくて助かりま した。

春先には珍しい野鳥にも出会いました。野 鳥への興味は、ゴールデンウィークに槍に登 られた方から、槍沢の雪の上で固くなってい たキビタキのことを聞いたのがきっかけでし た。しばらくして、さんけんの周辺で実物を 見ました。漆黒の中に黄色、ハッとする鮮や かな色彩でした。オオルリの青も鮮やかです ね。目にしたら、その日一日良い気分でいら



雪囲いをしたミニ水力発電小屋に初吹雪

れるほどです。

そんなことがあって、野鳥のことをもっと 詳しく知りたいな、と思ったのですが、その 頃には木々が繁ってしまい、なかなか見られ なくなりました。来年は、葉が繁る前に野鳥 を探したいと思っています。5月頃、皆さん もぜひいらして、ご一緒に野鳥を探してみま せんか……。その頃の上高地はとても静かな 時間が流れます。

さて、水場を仮復旧し、梅雨が明けてから は去年より大勢の方々で賑わいました。8月 初めのスケッチクラブの皆さんは、娘に絵筆 を握らせてくださいました。もちろん初めて のことです。手取り足取り教えていただいて、 普段見せない緊張した表情で描いていたのが とても印象に残っています。また、夏の間は、 お孫さんまで一緒に3世代でいらっしゃる方 も何組かありました。子供同士で一緒に遊ん でいただき、娘はとても喜んでいました。こ の時期は、管理人の私たちにとって、最も触 れあいの多い楽しい時期でした。

今年は、東北や九州など遠い地方からお越 しいただいた方が去年より多かったです。地 域もさまざま、活動の領域も多様な皆さまと お会いできたことを本当に嬉しく思っていま す。ありがとうございました。また来年、皆 さんとお会いできるのを楽しみにしています。

号で

報告

ま

本山スル

語会の 初登頂。

有

また

力

7

50

年

0

よ節

る目

登の

ン頂年

催され盛況

細

### 日本山岳会会報 山 739号

2006年(平成18年) 12月20日発行 発行所 社団法人日本山岳会 ₹102-0081

東京都千代田区四番町5-4 サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433 FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 平山善吉

編集人 神長幹雄

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp 印 刷 株式会社 双陽社

えくださ

月 の利たは、サナス 年経の そ 12 の 月 末に 過が 会報を編集している ての様子も1月号で は とても早く感じられ どうぞ良い 反省し きりで

ます。 晚 究餐会が、 お詫びし 初 め こで訂の 東 正誤

長 11月 (738) た。 島 男性5名、 835上段6日まで 医 (738) 6 女性7名] 藤 行、 号 参 室 10 が加者で 0 誤段 名 で

ズで

記た。

開ト

か